

大阪有機化学工業株式会社	
第 76 期定時株主総会 質疑応答要旨	
日 時	2023 年 2 月 22 日 (水) 10 : 00~10 : 40
場 所	ヴィアーレ大阪 4 階 ヴィアーレホール (大阪市中央区安土町三丁目 1 番 3 号)

### 【質疑応答要旨】

Q-1	次世代の半導体用 EUV レジスト原料の優位性及び生産時期について
A-1	<p>【技術本部長 徳田雄介】</p> <p>当社は、半導体用 ArF レジスト原料の事業を 2000 年頃から継続しており、現在でもトップシェアを維持しております。EUV は ArF の次の世代になり、昨年頃から立ち上がってきました。これまで ArF で培ってきた技術を活かして、EUV に適用しております。優位性は、品質管理や高純度に精製する技術になります。</p> <p>【代表取締役社長 安藤昌幸】</p> <p>EUV は、ArF よりも高密度で半導体を製造することができるため、データ処理速度が大幅に速くなり、自動運転、5 G、メタバース等に期待されています。</p>
Q-2	化学工場における安全操業の体制について
A-2	<p>【代表取締役社長 安藤昌幸】</p> <p>化学メーカーとしては安全操業が第一であり、常日頃からマニュアルの整備、チェック、訓練を絶えず行っております。</p> <p>【生産本部長 榮村茂二】</p> <p>設備につきましては、点検項目を設定し定期的な点検を実施しております。また、年 2 回の社長による設備診断も行っております。日々の作業におきましては、手順書や作業シートに基準値を設けており、圧力計等の現場の機器には、グリーンゾーンで適正範囲を表示して作業中にチェックできるようにしております。防災訓練につきましては、各工場で年間計画に基づき、火災、地震、津波等を想定した訓練を実施しております。</p>
Q-3	自動車塗料向け製品の足下の状況や今後の動向について
A-3	<p>【事業本部長 小笠原元見】</p> <p>昨年は、自動車生産台数減少の影響を受け、当社の自動車塗料向け製品の販売は低調に推移いたしました。徐々に回復傾向となりました。今後は自動車メーカーの生産も回復してきており、我々も期待しているところであります。</p>

Q-4	半導体需要の減速による影響について
A-4	<p>【代表取締役社長 安藤昌幸】</p> <p>半導体の中でもメモリーの需要に陰りが見えてきておりますが、パワー半導体やロジックについてはメモリー程は落ちていない状況であります。今後につきましては、2023年上期にメモリーが急回復するような状況ではないと考えられます。</p> <p>【事業本部長 小笠原元見】</p> <p>当社の半導体事業は昨年は大きな影響を受けず、堅調に推移いたしました。今後は、一時的な落ち込みがあるかもしれませんが、中長期的には成長していくとみております。</p>

以上